

聚りてしなやかに、
白く靱く、さて美し。

少女よ。

せめて、日に一度。

卿、しみじみ、

その白き手をながめ、
虔しき十指を愛憐しめよ。

(令女界2-8)

夜 愁

—民謡風—

夏も

をはりか、

樹の梢に

なにかゝるて鳴く

薄あかり。

一重の帯を

絡げばとて、

何かさびしい

夜の虫。

独り

しみじみ

涙ぐむ

月夜の笛よ

なぜ遠い。

(令女界2-9)

藤椅子にて

大地震と大火の夜は

いま、明けかゝり、

W字星座の光うする、